

- 上野図書館 ☎ 21-6868
- いがまち公民館図書室 ☎ 45-9122
- 島ヶ原公民館図書室 (島ヶ原会館内) ☎ 59-2291
- 阿山公民館図書室 (あやま文化センター内) ☎ 43-0154
- 大山田公民館図書室 (大山田教育センター内) ☎ 47-1175
- 青山公民館図書室 ☎ 52-1110

図書館だより

Library Information

★新着図書紹介 (上野図書館)

■一般書

『工場ディスカバリー』
小林 哲朗／著
製鉄所、化学工場、発電所、造船所などを撮影した写真集。工場地帯に建ち並ぶタンクや鉄管、噴出する蒸気などが、未来都市の風景のようにも見えます。四日市の工業地帯の写真も興味深いです。

■一般書

『宇宙主夫日記
—妻と娘と夢を追いかけて!—
(山崎 大地／著)
2010年4月、宇宙飛行士の山崎直子さんは、宇宙に飛び立ちました。妻である山崎さんを支えるため、自分の夢をいったん封印し、「主夫」として生活する道を選んだ著者の思いが書かれた本です。

■児童書

『郷土をつくった偉人事典
47都道府県』
上田 孝俊／監修 どりむ社／編集
都道府県ごとに、地域の発展に力をつくした人物を紹介した本です。三重県のページでは、伊賀にゆかりの西島八兵衛のほか、世界で初めて真珠養殖に成功した御木本幸吉などが取り上げられています。

■児童書

『ぞうくんのおおかぜさんぽ』
なかの ひろたか／さく・え
ある大風の日、散歩にでかけたぞうくん。そこへ、友だちのかばくん、わにくん、かめくんが強い風に吹かれて次々に転がってきました。ぞうくんはみんなを押しながらかきながら散歩を続けようとしていますが…。人気絵本の続編。

■廃棄用雑誌を譲ります 【場 所】上野図書館 (☎21-6868)
【期 間】6月12日(土)～27日(日) (休館日の月曜日を除く)

6月の読み聞かせ

開催日	会 場	時 間	催 物	*は読み手
2日(水)	ふるさと会館いが小ホール	10:00～1時間程度	絵本の時間	
12日(土)	上野図書館2階視聴覚室	14:00～30分程度	おはなしの会	
15日(火)	阿山公民館図書室	10:30～30分程度	読み聞かせの会	
16日(水)	上野図書館2階視聴覚室	15:00～30分程度	えほんの森 *読み聞かせボランティア「よもよも」	
20日(日)	阿山公民館図書室	10:30～30分程度	読み聞かせの会	
23日(水)	青山公民館図書室	10:30～30分程度	大きな絵本の読み聞かせ・おはなし広場	
26日(土)	大山田公民館図書室えほんのへや	10:30～30分程度	おはなしたいむ *おはなしボランティア「きらきら」	
26日(土)	上野図書館2階視聴覚室	14:00～30分程度	おはなしの会	
28日(月)	島ヶ原子育て支援センター	10:00～30分程度	絵本読み聞かせ	

★絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどをします

中世伊賀の名産品

伊賀茶

市史編さんだより (17)

夏も近づく八十八夜からひと月余りたちました。伊賀市では、現在でも治田・予野地区などで茶の生産が盛んですが、今回は、中世伊賀の名産品「伊賀茶」について紹介しましょう。

日本で本格的な茶の生産が行われるようになるのは、建久2年(1191)、宋に渡った栄西(臨済宗の開祖)によりもたらされて以後のことです。当初は薬用として寺院で用いられたものが、やがて嗜好品として普及するとともに全国に栽培が広まったと考えられています。

伊賀茶に関わる史料をみると、鎌倉時代終わりごろ、京都の六波羅探題など幕府の要職を歴任した金沢貞頭が、鎌倉の称名寺に伊賀国茶一箱を進上していることがわかります。六波羅探題在任中に伊賀茶のことを聞き、買い求めて菩提寺である称名寺へ贈ったのかもしれない。南北朝時代ごろに書かれた『異制庭訓往来』は、茶の名産地として、京都梅尾を第一とし、補佐するものとして醍醐、宇治などが挙げられています。その他に大和宝尾(原文ママ(奈良県宇陀市室生)、清見(静岡市)、河越(埼玉県川越市)などともに伊賀八鳥(服部)の地名もあり、全国に広く知られていたことがうかがえます。

伊賀茶をめぐる興味深い古記録もあります。南北朝時代の公家・中原師守(なかはらのもりもり)の日記『師守記』には、師守の妻の実家である新居からたびたび進物が届けられたことが記されています。進物は餅・柿・栗など季節に合わせてさまざまな品が贈られていますが、貞治四年(1365)4月29日に茶2袋、同年6月4月24日に茶9袋が届いています。いずれも4月末の日付であることから伊賀の新茶が贈られたのでしょう。

『異制庭訓往来』にみえる茶の生産地は、周辺に当時の中核となる寺院があったことが知られていて、奈良市の西大寺との関わりも指摘されていることから、伊賀茶が生産されるに当たっても、寺院が密接に関係していたと考えられます。

中世の服部郷には、当時西大寺の末寺と記録される寺田大岡寺(現大光寺)や荒木菩提寺(廃寺)があり、これらの寺院が伊賀茶の生産に関わっていたのかもしれない。歴史を紐解くと、地域の特産品の由来を改めて知ることができます。

総務課市史編さん係
☎ 52-4380 FAX 52-4381



▲大光寺